

能登半島地震対策で2回目の申入れ 災害復旧、生活支援などで14項目

日本共産党議員団は23日、中川市長に対して能登半島地震対策の第2次申入れをしました。

これは、8日の申入れ以降も市民のみなさんからたくさん要望を寄せられているので、それらをまとめたものです。内容は災害復旧、生活支援、今後の災害への備えの3本柱14項目です。申し入れ書は市川防災危機管理部長に渡しました。イラストはそのときの様子です。申入れの主なものをいくつか紹介します。

◆ 国道8号線の茶屋ヶ原地内の通行止め箇所ができるだけ早期に復旧できるように、市として全力をあげるよう。

同地内の通行止め箇所につき、迂回路(高速道路の無料区間を含む)の案内表示をより丁寧に行うこと。

◆ 県道上越安塚柏崎線大島区板山地内の道路崩落(左の写真)の早期復旧を図れるよう県に強く申入れること。

◆ 水産資源の安定供給を維持する観点で、津波被害を受けた漁業者の資機材の買い換え支援を行うこと。

◆ 中越地震の際に財団法人新潟県中越大震災復興基金が行った被災者生活支援対策事業に準じて、地域・集落等のコミュニティの場として長年利用されている鎮守・神社・堂祠の復旧を行う集落又は町内会等が助成を受けられるよう手配すること。

◆ 倒壊した塀や石灯籠、大型家具等、大型の災害ゴミを撤去し、受け入れ場所まで運搬する費用を支援すること。また、災害ゴミの通常のごみ集積所を活用する市による回収について検討すること。

◆ 住居以外の建物作業所や車庫、倉庫、土蔵等の損壊に関し、必要な支援を行うこと。

◆ 一部損壊の家屋や付属建物への支援を行うこと。

◆ 災害ゴミの無料受け入れ期間を再延長すること。



【オオミスミソウ】
(再掲) キンポウゲ科の多年草。漢字で「大三角草」と書きます。別名は「雪割草」。この別名の方が知られています。通常、花期は4月から5月ですが、雪が早く消えれば開花は早まります。花言葉は「自信」「信頼」です。写真の花は、わが家の庭にて1月22日、咲きました。

通年観光、事業費として約50億円投入

通年・広域観光推進特別委員会が23日開催されました。議題はこのほど市がまとめた通年観光計画です。計画期間は2024年度から2030年度までの7年間です。

委員会では、昨年11月の中間報告時の議論を踏まえ、春日山城跡の整備の在り方、インバウンドへの対応などで活発な質疑が行われました。

注目したことの1つは事業費の規模です。7年間の整備計画ですが、事業費総額は49億1900万円で、春日山地域が36億8000万円、直江津地域が10億5000万円、高田地域が2億3400万円と巨額になっています。



す。個別に見ると、埋蔵文化財センターの近くに整備したいとする観光拠点施設整備に21億円。②直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館に4億6000万円となっています)。

いま市民は医療や福祉などの分野で生活支援を何よりも求めています。それだけに、観光計画にたいする市民のみなさんの声にしっかりと耳を傾けていきたいと思えます。今後は特別委員会だけでなく、議会本会議でも議論していく決意です。みなさんのご意見、ご要望、お寄せ下さい。

はしづめ法一の活動レポート

No.2143 2024.1.28

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七九〇回 ゆり根

今回は、お茶会での話がサイの神や山野草のことから正月の料理のことにまで発展したエピソードです。

つい先だつての日曜日、大島区保倉地区のH子さん宅へ活動しポートを持って行ったときのことです。

玄関で声をかけたら、H子さんに続いてC子さんも出てこられました。お茶に誘われ入らせてもらったのですが、H子さんは「まあ、偶然って、こういうことを言うのね」と言われました。その日の朝刊に折り込んだ「春よ来い」の話が頭の中にあつたのでしようね。

C子さんは、「もう二時間も遊ばせてもらったので、帰ろうとしたところに橋爪さんがきになった。お父さんには一時間くらいで家に戻ると言っていたが、戻らないと怒られちゃう」と言いながらも、引き続きお茶会に付き合ってくださいました。

お茶を飲みながら、世間話になつたのですが、最初は人が減っていることが話題となりました。そのなかで安塚区の上船倉のサイの神のことが出てきました。「戸数はほんの数軒になつたと思うけど、あそこでもサイの神をやつたんだって、すごいね」とH子さん、C子さんのどちらかが言いました。じつはその準備の様子の一部を私は国道405号線を走っていて、見ていました。たしかにすごい頑張りのだと思えます。

その上船倉のすぐ近くにあるのが大島区の西沢です。現在二戸だけかと思いますが、かつて西沢の小学生は船倉の小学校に通っていました。旧大島村教育委員会で仕事をすることがあるC子さんによると、西沢の子どもたちは、小学校は安塚に世話になり、中学生になると大島区内の中学校に通うということになっていきました。

西沢の名前が出たところで、私から、西沢にはオニユリがたくさん咲いているところがあり、写真を撮りに行ったことがある

と、そのときの様子を語りました。

そうしたら、いつの間にかオニユリからヤマユリの話になりました。「大きな個人的な花だよね」「ヤマユリがたくさん咲くのは菅蒲高原だわ」「棚岡の山手にヤマユリの群落があつて見事に咲いている」などといった話で賑やかにになりました。

それからです、「ゆり根」の話で盛り上がったのは……。 「ゆり根」というのはヤマユリの球根です。「ゆり根」は美味しいが、近年はイノシシが掘って食べている、その結果、ヤマユリは無くなってしまったなどといった話が次々と出ました。

言うまでもなくイノシシが「ゆり根」を食べているのは美味しいからです。子ども頃、母が作ってくれた正月料理の一つに茶碗蒸しがあり、そのなかに銀杏と共に入っていた「ゆり根」、楽しみでした。

私が子どもの頃は戦後間もないこともあつて、まだ食糧難の時代でした。いつも腹を減らして生きていました。そんな時代でしたから、野山の食べられるものは何でも食べていましたし、正月にしか食べられないものがいくつもあつたのです。

三人のお茶会で私が話したのはミカンと茶碗蒸しです。ミカンは尾神の庵主さまが正月、お経を読みに来てくださるとき、土産に二、三個持ってきてくださいます。そのミカンを兄弟で分け合つて食べたものです。茶碗蒸しは、何といつても「ゆり根」のほつくりした食感が最高でした。

H子さん宅でのお茶会は四〇分以上にもなりました。会の終わりの頃、C子さんに「ゆり根はつとこに入れて持ち歩いたこと。橋爪さん、つとこって知っていますか？」と訊(き)かれました。もちろん、知っています、と答えました。庵主さまが正月料理を持ち帰られるとき、母が用意した入れ物は、ワラでつくつた「つとこ」だったのですから。

各地で新年のつどい

新型コロナウイルス感染症がら類に移行したこともあつて、今年は各地で新年会が開催されています。

20日は「吉川区新年のつどい」でした。会場では能登半島地震被災者支援の募金箱が置かれ、開催に先立ち、黙とうもしました。

オープニングは大正琴のグループ、「吉川琴永会」のみなさんによる「川の流れるように」と「銭形平次」の演奏(イラスト)です。新春らしい演奏でした。

来賓として挨拶した中川市長は、



ニュースフラッシュ

今回の地震にふれ、「被害を見つければ総合事務所または木田庁舎にご連絡ください。すぐ対応します」と激励しました。

私も挨拶させていただきました。私は、心に残る感動的な出来事がいくつもあつたとして、群馬の青年医師が避難者の1人としてたまたま吉川区に来て、「私は医師です。何かお役に立つことがあったら声をかけてください」と申し出てくれたことなどを紹介し、みんなで力を合わせ、いいまちづくりをしましょうと訴えました。

頑張る朝市の人

直江津の三ハ市で頑張る人、今回は桑取の曾我さんです。寒風にも負けず、商売されています。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月17日(水)	1月24日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.043	0.040
名立分遣所	0.043	0.063
高士分遣所	0.047	0.050

